特別講演 3

「セト研の創立とその後の歩み」

平口　哲夫（金沢医科大学名誉教授）

The founding and the course of the Cetology Study Group of Japan

Tetsuo Hiraguchi (Emeritus Professor, Kanazawa Medical University)

日本セトロジー研究会は、1988 年 12 月に「日本海セトロジー研究グループ」として発足、1998 年 6 月に「日本海セトロジー研究会」に改称、さらに 2006 年 6 月に現在の名称に改められたが、略称は一貫して「セト研」で通っている。このセト研は、1988 年 3 月 3 日、石川県能都町漁港にオウギハクジラ類が水揚げされたのを機に、山田致知 金沢大学医学部名誉教授を中心に設立の話しが持ち上がり、同年 12 月 2 日から三日間の日程で開催されたシンポジウム「日本海と鯨類」(夢半島のと推進委員会主催)の際に発足したのである。

セト研発足前の 1988 年 11 月 30 日現在の名簿には、顧問として大村秀雄（鯨類研究所）、宮崎信之（国立科学博物館動物研究部、交渉中）が掲げられ、以下の通常会員 29 名が収録されている（アルファベット順、所属等は当時）。相原 節（のとじま臨海公園水族館）、畑中つとむ(文に心)（七尾市石崎町香島中学校）、平口哲夫（金沢医科大学人文科学）、本間義治（新潟大学理学部付属臨海実験所）、池口新一郎（のとじま臨海公園水族館）、池口 潮（のとじま臨海公園水族館）、神谷敏郎（筑波大学医療技術短期大学部）、かせ(糸に白)野義夫（金沢大学理学部物理地学）、川淵 忍（のとじま臨海公園水族館振興協会）、川井克司（金沢大学医学部解剖学）、国本昭二（エッセイスト）、児玉公道（金沢大学医学部解剖学）、松浦信臣（泉丘高校）、長岩直志（のとじま臨海公園水族館）、中村幸弘（上越市立水族博物館）、中村 泉（京都大学農学部付属水産実験所）、荻野こう(冫に光)太郎（のとじま臨海公園水族館）、岡本圭史（金沢大学医学部解剖学）、斉藤 豊（のとじま臨海公園水族館）、坂下裕美（のとじま臨海公園水族館）、桜井一男（のとじま臨海公園水族館）、佐野 修（金沢水族館）、佐々木秀之（金沢水族館）、関谷伸一（犀潟ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学院）、山田致知（金沢大学医学部解剖学）、山田 格（新潟大学医学部解剖学）、米田 満（北國新聞社）。

1980 年代の能登では、オウギハクジラ類の水揚げ・漂着だけでなく、鯨類関係の出来事があいついだ。まず 1982 年に「のとじま水族館」の開館と能都町(現・能登町)真脇遺跡における縄文時代イルカ骨の多量出土があり、ついで 1984 年羽咋市滝海岸にコマッコウ漂着、さらに 1985 年七尾市大杉町で中新世層からクジラ化石 1 体分が発掘された。1988 年 11 月 30 日付けセト研名簿に様々な分野の研究者やクジラ愛好者が登録されているのは、この年代の出来事によるところが大きい。

山田致知 初代代表、国本昭二 元ﾆｭｰｽﾞﾚﾀｰ編集長をはじめ、セト研創立時からの会員には他界した方々がおられ、2015 年には佐野修 元事務局長と本間義治 顧問も亡くなられた。これらの方々を追悼するとともにセト研の歩みを振り返り、創立 30 周年に向けてのよすがとしたい。